



海老沼小だより

～ かしこく やさしく たくましく生き抜く子
笑顔と歌声あふれる学校 ～

10月号

令和4年10月3日

さいたま市立海老沼小学校



成長の秋！

校長 大島 恵美

中庭のけやきの剪定をしました

四季の豊かな日本には、季節や気候を表す言葉がたくさんあります。中でも『暑さ寒さも彼岸まで』は、気候の変化を感じるこの時季に、これほど納得しながら使っている言葉は他にはありません。校庭を吹き渡る風の爽やかさに加え、見上げれば青い空にひつじ雲、身体全体で感じられる秋の景色です。暑さ指数も下がり、休み時間には校庭を元気に走り回る子どもたちの声が聞こえるようになりました。コロナ禍ではありますが、『文化・スポーツの秋』の到来を感じさせてくれます。

朝夕の涼しさと日中の空気も爽やかなこの季節は、野外での活動に適した時季です。本校でも9月に5年生館岩(今年度はたかつえですが…)自然の教室、10月に6年生修学旅行など、場所を校外に移して行う行事を実施、予定しています。その目的は、「自然の中で集団宿泊活動などの平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、人間関係などの集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと」と学習指導要領にも記載されています。長年宿泊的行事に同行しましたが、そのたびに子どもたちの成長を実感します。親元である家庭を離れ、その数日間は集団の中で生活のすべてのことを「自分」で考え、「自分」の判断で行うからです。

先日、9月27日～29日まで先述した通り、子どもたちが決めたスローガン『さあ、学ぼう！自然の恵みを感じて 深めよう！仲間との絆 作ろう！最高の思い出を！！』のもと、館岩自然の教室に5年生と一緒にってきました。始め、子どもたちは「次、どこに行くの？」「次は何やるの？」などなど、担任にすぐに聞いていました。「しおりに書いてあるよ。」「次は何をするのかな？」と答えをすぐに教えるのではなく、自分で調べて自分で判断させるように促していました。次第に、班でスケジュールを確認したり、しおりを読み込み互いに伝え合ったりする子どもたちが増え、「自分」で考え「自分」で判断する姿が見られるようになりました。帰校式の5年生の顔は、かなり引き締まったものとなりました。

子どもたちは、生まれたときから現在まで、ずいぶんと成長しましたし、もちろん、これからも大きく成長していきます。見守りながらも、発達段階に応じて挑戦させること、そして時には子ども本人に任せることが、子どもたちの成長には大切だと感じています。それを見守るのが私たち大人(学校・家庭・地域)の役目です。

10月22日(土)には体育発表会を行います。今年度は、ペア学年、保護者2名参観での発表会形式で開催を予定しています。様々な経験を経て、ひとまわり成長した「えびっ子」の姿を楽しみにしてください。